

京都市歴史資料館所蔵「上野伊三郎家文書」の紹介

井上 幸治

はじめに

上野伊三郎（1892～1972）は、建築家として知られ、京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）などで教鞭をとった。妻の上野リチ（1893～1967）も工芸家として著名である。上野夫妻は、昭和38年（1963）5月にインターナショナルデザイン研究所を設立し、後進の育成にあたったが、二人の没後、その関係資料はインターナショナル学園が管理していた。平成元年（1989）3月に、伊三郎以前の上野家に関わる史料群が、同学園より当館へ寄贈された。そして令和4年度、公益財団法人ポラ美術振興財団より助成金を受け、調査研究を行なった（テーマ：「上野伊三郎家文書」に含まれる建築図面の調査・整理および展示方法についての研究）。本稿は、その成果に基づくものである。

なお上野伊三郎・リチの業績に関わる史料群は、平成18年度に京都インターアート美術学校から京都国立近代美術館へ寄贈され、平成21年には図録・目録として『上野伊三郎+リチ コレクション』が刊行されている。

また本稿内容の一部は、京都市歴史資料館第2展示室にて行ったパネル展示「上野伊三郎家文書の建築図面」（令和5年2月2日～4月23日）において、既に紹介し

ていることを付記しておく。

1 大工・上野家

上野家は、河原町通竹屋町東入（京都市中京区）において大工棟梁・建築請負業をいとなんでおり、「大伊」（大工伊助のことか）とも称していた。

江戸後期～明治期には「伊助」を襲名しており、「京都御所に出入りする宮大工であった」とされる¹⁾。実際、本史料群中にも禁裏・二条城・東本願寺などの建物の建築・修理に加わった際の図面・記録が残されており、その事実をうかがわせる。しかしそれらをはじめ、他の史料においても、管見の限り、棟梁などとして「上野伊助」や「伊助」という名の大工は確認できていない。現在のところでは、具体的な立場については未詳とするのが妥当であろう。

2 本史料群の構成

本史料群は、上野家以外において作成されたものも多数含んでいる。何らかの経緯によって上野家に所蔵されるようになったのであろうが、それらの具体的な経緯は明確ではない。以下では、それらの資料をグループごとに紹介しておく。

(1) 中井家

「中井扣」と書かれた図面が5点含まれている。明記はされていないが、内容・絵様の類似する図面が他にも数点含まれている。即断はできないが、大工頭中井家に率いられた大工集団との関係がうかがえる²⁾。

・中井扣

- 012 (417) 鋳金物図 (中井控)
- 011 (418) [常御殿・宮之御殿高欄金物図] (中井控)
- 030 (419) [仙洞御所表御門滅金金物図] (10月13日、中井控)
- 048 (109-4) 中宮御殿御床カ段違建図 (子2月、中井控)
- 161 (152) 根本中堂北妻四十分一 (中井伊織写)

*数字は、後掲目録の番号。()内は受入番号。以下同じ。

(2) 東本願寺

東本願寺のものと推測しえる図面の中には、「肝煎方」と記されたものや、そこに捺された「義」字と思わしき黒方印が見いだせ、「青木新助」「水口伊豆」「中江」といった名が記される。これらは東本願寺の大工組織・肝煎方に由来するものと思われる。

・青木

- 097 (314) 御影堂木口絵図
- 098 (322) 御影堂敷居并二寄敷図

・中江

- 122 (323) 白書院建杖 【「義忠」】
- 153 (199-5) 上棟新始絵図書付入
- 156 (407) [比叡山・坂本諸堂図] 【「義」印】

- 293 (404) 塔雛形 【「義」印】
- 346 (361) 床コ棚廻り雛形 (袋)
- ・「義」印
- 110 (060) [阿弥陀堂御門木寄に付覚] (天保4年5月調)
- 148 (061) 御上旦御蔵木寄工数日記
- 125 (064) 白書院木寄 (巳10月)
- 109 (130) 本堂御門木寄帳 (天保4年5月)
- 139 (247) [東本願寺屋敷絵図]
- 121 (308) 白書院御治定絵図
- 144 (311) 御台所小出シ廻り御上段廻り
- 135 (318) 能舞台木口指図
- 293 (404) 塔雛形
- 156 (407) [比叡山・坂本諸堂図]

天保4年(1833)の御影堂上棟、同6年の阿弥陀堂上棟では、肝煎方の大工として青木新助良容・中江定治郎義忠の名がある³⁾。「義」印は、「肝煎方」として捺されたところがあるが、中江定治郎(義忠)の印であったかもしれない。



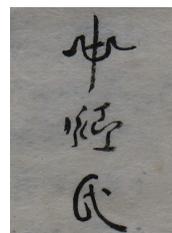
「義」印



肝煎方「義」印



「中」記号



「中江氏」

そしてこのうち、中江氏については、「義」印だけでなく、「中」字をもとにデザインされたらしき記号が、資料中に散見される。この記号を用いて「中江氏」と書かれたところがあることから、「中江氏」の「中」であると推定している。

・「中」記号

- 003 (042) 〔内裏建物覚〕(横半帳)
- 012 (417) 鋳金物図 (*「中井扣」)
- 018 (045) 〔禁中九門〕惣御門正寸書留 (寛政元、横半帳)
- 144 (311) 御台所小出シ廻り御上段廻り (*「義」印あり)
- 158 (148) 比叡山建物雛形
- 253 (056) 〔建築雛形 第三号〕(横半帳)
- 322 (038) 大門木割寸法留メ (横半帳)
- 328 (272) 〔諸文様下絵集〕
- 399 (043) 〔五冊之内〕小坪規矩 (寛政2、横半帳)
- 400 (044) 〔五冊之内〕棚雛形 (寛政2、横半帳)

「中」記号と「義」印の重複は、いずれも中江氏のものと考えれば問題ない。しかし、012 (417) の1点だけではあるが、「中井扣」と記されたものに「中」記号が記されていることには、注意が必要であろう。ひとまずここでは、東本願寺肝煎方大工であった中江氏が、中井家から中宮御殿などに関する資料を譲渡されたものと想定しておく。

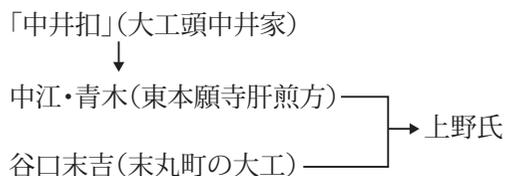
(3) 谷口末吉

谷口末吉 (季吉) は、上野と同じ末丸町に居住していた大工である。しかし明治中期以降、大工として活動している事実を確かめられない。恐らく谷口は、明治中期までに大工業を廃しており、その際、所有する図面などを上野へ譲り渡したのではないだろうか。

・谷口

- 259 (052) 『新撰大工雛形』4冊 (明治19写)
- 261 (283) 神明造破風総様
- 262 (349) 見世棚流シ造社 拾分一之図
- 264 (291) 見世棚流シ造社 平之図
- 265 (269) 見世棚流造社 平之図 (下絵)
- 266 (362) 見世棚流造社
- 274 (343) 〔鳥居雛形〕
- 275 (295-4) 鳥居
- 276 (295-5) 鳥居
- 303 (348) 土蔵戸前図
- 318 (292) 塀重門之事
- 320 (295-7) 塀重門ニ腰塀
- 326 (050) 絵様雛形 (明治19)
- 327 (049) 絵様雛形
- 355 (265) 〔唐戸扉板図〕
- 367 (295-2) 掛子造之事
- 374 (047) 柱根継覚帳
- 383 (262) 〔井筒桁隅木落掛り搔様〕
- 401 (067) 建家地坪数取様控 (明治19)
- 425 (001) 『番匠往来 全』(明治20購入)

これらの経緯を総合すると、本資料群の形成過程として、



というような経緯が復元できる。

本資料群には、他にも村山勝治郎作の絵図がまとまっているなど、複数の大工から資料を集積している様子がうかがえるが、それらの人びとについて詳しく知ることはできない。上野伊助は、廃業した大工から資料を譲り受けていたのではないだろうか。

〔上野工務店〕

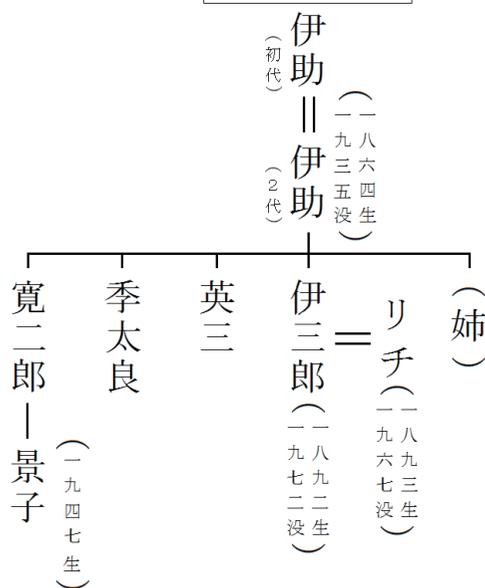
明治期の上野家は、末丸町に居住していたが、同町内や隣接する大文字町にも数か所の土地を所有していた⁴⁾。その地租は、明治34年には1,200円、大正14年6月現在には1,079円(508坪、評価額7万5,530円)とあり(『資産家地主総覧 京都編1』)、500坪前後を所有していたことがうかがえる。

住所は、竹屋町通河原町東入が示されることが多いが、中町通竹屋町下る、中町竹屋町上る(中町通御霊図子下る)などとも書かれ、周囲に多数の土地を有していたことをうかがわせている。

近親者の関係図を示せば、系図のようになる⁵⁾。

上野伊助(2代)は、上野工務店をいとなみ、「住宅の施工を主とした」とされるが⁶⁾、『銅駝尋常小学校沿革史』(1934年)に

上野家系図



も略歴が記されており、参考となる。それらによると伊助は、近江国高島郡三谷村(滋賀県高島市今津町)で大溝藩土谷口善右衛門の三男として元治元年(1864)正月に生まれ、明治11年(1878)に京都へやってきて上野伊助(初代)の徒弟となり、後にその家督を嗣いで建築請負業をいとなんだという。明治31年(1898)には銅駝小学校(当時は二条通寺町東入榎木町に所在)の教室建築を手がけ、大正8年(1919)にも銅駝小学校(鉾田町)の校舎新築第二期工事を請け負った。この間、学区会議員(明治40年~大正6年)もつとめている。

上野伊助が請け負った建築については、新烏丸通二条上る西側の京町家が現存するが、残念ながら詳細はおえていない。ただし本史料群には、京都帝国大学理工科大学の機械建築学等教室を建てた際の図面がまとまって残されており(231~241号)、規模の大きな学校校舎も手がけていたことが

わかる。この校舎は、明治31年に竣工している。

このほか、資料中には「京都婦人慈善会附属慈愛手芸女学校校舎建設仕様注文書」(242号、年未詳)も含まれており、「上野用箋」と印刷された罫紙に書されていることから、上野工務店によるものと類推しえよう。上記仕様注文書によると、この学校は知恩院門前に建てる予定となっている。慈愛手芸学校は、明治36年に設立された慈愛女学校が、明治39年5月に増科・改称したものであり⁷⁾、知恩院門前への移転は明治42年3月である⁸⁾。この仕様注文書の年代も、明治41年頃と推測しえよう。ただし、伊助がこの校舎建築を請け負ったか否かは、確認できていない。

なお商工人名録の類には、管見の限りでは、明治32年(1899)から昭和4年(1929)までの間において、上野伊助の名を確認できる(別表参照)。

上記『沿革史』には、伊助が、京都における蒸気ポンプ技師の草分け的存在であったことも記述されている。伊助は、明治36年(1903)に京都市役所消防部の機関士となり、後進の育成にもあたった。明治40年～大正6年には機関士長をつとめ、大正6～8年には川端消防組小頭となるなど、京都市の消防現場においても功績を残して



上野伊助(『銅駝尋常小学校沿革史』)

いる。

〔上野伊三郎の大工修行〕

上野伊三郎(1892～1972)は、五人きょうだいの二番目の子どもで、長男である。伊三郎には、三人の弟がいた。伊三郎は当初、府立第二中学校へ進むが、それを中退している。長男であったため、父業を継ぐべく、大工としての勉強に励むためのようである。そのころの様子をうかがわせる図面が、本資料群に含まれている。いずれも雛形と思われるが、門・玄関などの正面図・側面図・平面図の清書が確認できる。その年紀は、明治43年(1910)から大正2年(1913)となっており、伊三郎18～21歳のころである。

353 (162-3) 〔車寄正面図〕

明治43年10月

151 (251) 車寄唐門正面図

明治44年

143 (309) 御廊所入口御唐門并透塀
共建地割

大正元年12月

307 (162-1) 四脚門正面図

大正2年1月

308 (162-2) 四脚門側面図

大正2年1月

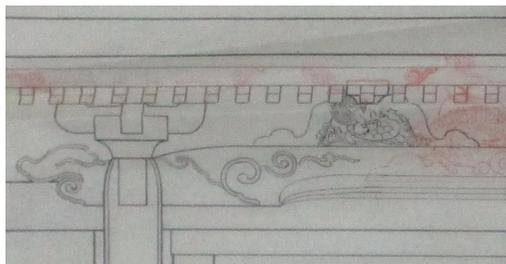
288 (342) 〔二階楼立面図〕

大正2年3月

354 (363) 玄関之図

大正2年5月

これらのうち、大正2年に描かれた四脚門正面図(307号)には、「虹梁墓股等の絵様ハ略下御霊神社現在の様に依る」と附記されている。下御霊神社(京都市中京区寺町通丸太町下る)には、禁裏の建礼門を移



築したと伝わる四脚門が現存しており、それをさすのであろう。実際、両者の虹梁・墓股を見比べると、極めてよく似ていることが確かめられる(上掲写真参照)。伊三郎は、現存する建物を実見しながら、図面作成を学んでいたのである。

ところが伊三郎は、大学進学を志し、父の許しを得て東京の正則中学校へ編入している。旧制中学校には12歳から入学できるため、同級生の大半は、伊三郎よりかなりの年少者であったと思われる。大正4～5年には、銅駝青年団の評議員をつとめており⁹⁾、東京・京都を行き来しながら暮らしていたのではないだろうか。

そして伊三郎は、大正6年(1917)に早稲田大学高等予科理工科(理工学部)へ入学する。大学へ入った伊三郎ではあるが、周囲の学生よりも年長であったことは変わらず、また建築を学ぶとはいっても、すでに日本建築の図面を引けるような作図技能は習得していた。伊三郎の主眼は、近代建築について具体的に学ぶことであっただろう。父伊助が伊三郎の修学を許したのも、京都帝国大学の校舎建築などを通じて、近代建築の知識が必要だと感じていたからではないだろうか。実際、伊三郎が近

代建築の構造に関心をもっていたことが指摘されている¹⁰⁾。

なお当時の早稲田大学は、後に日比谷公会堂を設計する佐藤功一や、大阪市中央公会堂の原案設計を担当した岡田信一郎が教壇に立っており、近代建築を学ぶには適した環境であったといえる。

〔上野建築事務所から後進育成へ〕

伊三郎は、大正11年(1922)に理工学部を卒業すると、すぐに渡欧し、ベルリン工科大学・ウィーン大学で学びを続け、大正13年からウィーンで建築事務所に勤務した。そこで、妻となるリチ(1893～1967)と知り合った。当時からリチはデザイナーとして活動していた。

上野伊三郎は、大正15年(1926)にリチとともに京都へ移りすみ、上野建築事務所を開く。昭和5年(1930)にはリチも活動拠点を日本へ集約した。戦後の昭和21年(1946)に建築事務所を閉じ、伊三郎は摂南工業専門学校、京都市立美術大学、金蘭短期大学などで教鞭をとっていたが、昭和38年(1963)5月にリチとともにインターナショナルデザイン研究所を設立し、後進の育成にあたった。その後、昭和42年10月にリチが、昭和47年5月に伊三郎も亡くなった。

本資料群には、大学卒業以後の伊三郎に関する資料は、含まれていない。

〔大工・設計・図案〕

伊三郎が重視したのは、設計と図案との一体性であった。しかしその土壌は、近世以来の大工であったことにも影響されてい

るとみなせよう。近世の大工は、細かな図案に至るまでを、自らで手掛けている。伊三郎もまた、若いころの大工修学において、木鼻・蟻股・鬼瓦などの図案を学んでいたことが、「上野伊三郎家文書」中に残る資料からうかがえる。大正2年に記した四脚門側面図（307号）には、下御霊神社の門を参考にしたという具体的なメモも残る。

近世の大工にとって、装飾図案は設計の一部であった。伊三郎も、家業の大工修行を通じて、そのように学んでいたであろう。それ故に伊三郎は、自己のモダニズム建築においても、設計と図案との密接な関係を重視したのではないだろうか。つまり伊三郎建築の特徴は、家業であった大工と

しての修養に源を発していたといえるのであり、伝統的な日本建築の設計プロセスに基づきながらモダニズム建築を設計していたともいえようか。伊三郎建築の個性は、こうした融合によってもたらされたのである。

まとめ

京都市歴史資料館が所有する「上野伊三郎家文書」は、上野伊三郎が近世大工の系譜に連なることを示している。伊三郎の設計を、そのような文脈で解釈すれば、伊三郎の唱えた設計と図案との関係も理解がしやすいだろう。この点は、妻リチとの関係性においても同様である。

井上^{いのうえ} 幸治^{こうじ}（歴史資料館 館員）

註

- 1) 「上野伊三郎+リチ」略年譜（山野英嗣・池田祐子編『京都国立近代美術館・所蔵作品目録 VII 上野伊三郎+リチ コレクション』京都国立近代美術館・2009年）。以下、伊三郎・リチの経歴に関する事柄は、この略年譜によるところが大きい。
- 2) 水度神社本殿の文化12年（1815）葺上棟札には、事業にかかわった檜皮師の名が記されているが、その中に、補助細工方・京方として「新榎木町通夷川上ル」に「檜皮屋伊助」がいる。屋号など異なるところもあるが、住所が近いことは注意したい。国立歴史民俗博物館編『社寺の国宝・重文建造物等 棟札銘文集成—近畿編—』（国立歴史民俗博物館・1996年）。
- 3) 小山興誓「近世の東本願寺大工棟梁 一笠井家の新出史資料を中心に—」『同朋大学佛教文化研究所紀要』40号（2021年）。
- 4) 松本利治『京都市町名変遷史4 御所周辺II（中京区）』（京都市町名変遷史研究所・1993年）。
- 5) 『京都年鑑』各年版および英三（伊三郎弟）ご子孫のお話による。
- 6) 「上野伊三郎+リチ」略年譜（注(1)前掲）。
- 7) 『京都市学区大観』第五章「一般教育」（200～201頁、京都市学区調査会・1937年）。
- 8) 『京都府百年の年表4 社会編』（京都府・1971年）122頁。
- 9) 『銅駝尋常小学校沿革史』（1934年）。
- 10) 笠原一人「上野伊三郎の建築活動について」『日本建築学会計画系論文集』75巻649号（2010年）。

【附記】

令和5年（2023）2月2日（木）～4月23日（日）に、京都市歴史資料館1階第2展示室にて、パネル展示「上野伊三郎家文書の建築図面」を開催した。その概要は、次の通り。

〔主な展示品〕

上野伊助肖像パネル（『銅駝尋常小学校沿革史』より）

京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室の図面パネル11点

高台寺方丈数寄屋起し絵図（拡大複製）

誓願寺竹林院数寄屋起し絵図（拡大複製）

〔展示風景〕



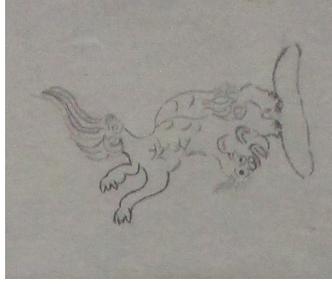
〔シールアンケートの実施〕

会期後半の4月4～23日（開室18日）には、シールアンケートを実施した。「上野伊三郎家文書」中に描かれた動物デザイン下絵の中から6点を選び、それぞれに次のようなタイトルを付与した上で掲示し、好みの図柄にシールを貼付してもらうことで、人気投票を実施したものである。

その結果は、次頁の通り。

*ご参加いただきました皆様へ、厚く御礼申し上げます。





3 さかだちぼくちゃん
(12票)

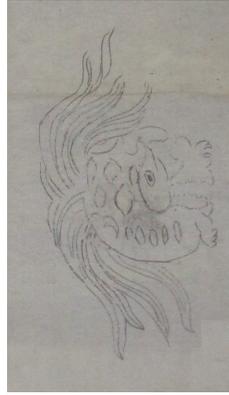


その他 (2票)



3位

2 飛び出るソウ
(18票)



6 神亀？ 蓑亀？ (9票)



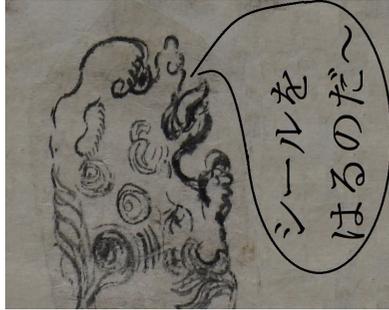
1位

1 鬼瓦太郎 (22票)



2位

5 邪気ふんばる
(21票)



その他 (2票)



4 鳳凰の舞い、 (13票)

別表 商工人名録類に見える上野伊助

年	住 所	所得税額	営業税額	出 典
1899	竹屋町河原町東入	/	11	牧野元良編『大日本商工人名鑑』
1900	竹屋町河原町東入末丸町37	/	/	日本紳士録 第6版
1901	竹屋町河原町西入	6	11	京都市商工業者資産録
1902	竹屋町河原町東入末丸町37	7	/	日本紳士録 第8版
1905	竹屋町河原町東入	41	13	京都商工人名録 明治38年「大伊」
1908	竹屋町河原町東入末丸町	85	/	第12版日本紳士録
1909	竹屋町河原町東入末丸町	60	33	第13版日本紳士録
1910	竹屋町河原町東入	47	/	第14版日本紳士録
1910	河原町竹屋町東入	100	/	第15版日本紳士録
1911	竹屋町河原町東入	64	/	第16版日本紳士録
1912	竹屋町河原町東入	99	77	第17版日本紳士録
1912	中町竹屋町上	/	55	京都商工人名録 明治45年改正「大清」
1913	竹屋町河原町東入	56	/	第18版日本紳士録
1914	竹屋町河原町東入	49	/	第19版日本紳士録
1914	竹屋町河原町東入	99.33	42.5	日本全国商工人名録 第5版
1914	竹屋町河原町東	/	42	京都商工人名録 大正3年改正「大清」
1915	中筋竹屋町北入	48	/	第20版日本紳士録
1916	竹屋町河原町東入	46	/	第21版日本紳士録
1916	竹屋町河原町東入	48.94	26.00	日本全国商工人名録 第6版
1918	竹屋町河原町東入	46	/	第22版日本紳士録
1919	竹屋町河原町東入	63	/	第23版日本紳士録
1919	竹屋町河原町東入	63	/	第24版日本紳士録
1921	中町通御霊図子下ル	84	73	第26版日本紳士録
1921	中町通御霊図子下ル	84.88	73.50	日本全国商工人名録 第8版
1922	竹屋町河原町東入	132	105	第27版日本紳士録
1922	中町通御霊図子下ル	/	105	京都商工人名録 大正11年改版
1924	中町通御霊図子下ル	73	/	第28版日本紳士録
1925	竹屋町河原町東入	105	/	第29版日本紳士録
1928	中町竹屋町下	145	/	第32版日本紳士録
1929	竹屋町河原町東入	85	/	第33版日本紳士録

註) 出典は、国立国会図書館デジタルコレクション、「資産家地主総覧 京都編1」による。税額は円。

〔凡例〕

- 一、本目録は、「上野伊三郎家文書（インターナショナル学園寄贈文書）」（寄贈081）の目録である。本文書群は、平成元年（1989）3月にインターナショナル学園より寄贈されたものである。
- 一、本目録では、文書群を1 公家、2 二条城、3 寺社、4 茶室など、5 近代建築、6 雛形類、7 不明建築、8 典籍、9 その他に分類し、各項目内で内容・年次等を鑑みて配列したうえで、全点に一連番号（文書番号）を付した。
- 一、「中」マークや肝煎方印のあるものの多くは、「3 寺社」のうち東本願寺に関するものに含めた。
- 一、目録の項目は、順番に番号、資料名、年月日・西暦、作成者・宛先、形状、法量、員数、備考、受入番号である。
- 一、文書名は、原則として原題を採用した。原題を補足する情報は（ ）内に記し添えた。原題を欠くものには適宜文書名を新たに付与したが、その際には文書名に〔 〕を付した。
- 一、一括状況の記録は備考欄に、受入番号によって記した。
- 一、作成年代に幅がある場合は、最も古い年次をとり、「～」を付してその旨を示した。
- 一、作成年代・作成等を推測できる場合は、（ ）を付して示した。
- 一、作成者につながると思われる印・マーク等については、その有無を作成者欄または備考欄に示した。
- 一、法量の単位はミリメートルであり、「(縦)*(横)」で示した。

- 一、原則として常用漢字を用い、旧字体・異体字・変体仮名・合体字等は用いない。また遺憾ながら、判読に至らなかった文字については、「■」としている。

- 一、受入番号の内、214・221・222・284は欠番である。

- 一、本目録の作成および一部資料の撮影については、(公益財団法人)ポーラ美術振興財団令和4年度助成金（美術館職員の調査研究助成）を活用した。作業には、以下の方々が従事した。所属は、作業当時。

青山耕平(大阪大学大学院生)、
南 佑佳(京都橘大学大学院生)、
阿部大介、桑原優子、安 裕太郎(以上、佛教大学大学院生)

上野伊三郎関係史料（インターナショナル学園寄贈文書）目録

番号B	資料名	年月日	西暦	作成者	宛先	形状	法量	員数	備考	受入番号
I 公家										
001	[禁裏其外三御所御地面等書留メ]	/	/	/	/	横半帳	125 * 181	1	天明8年正月以降 / 虫損大	41
002	寛政御造管禁裏御諸御殿十分一御建杖元仕出 し	/	/	/	/	絵図	316 * 545	1		175
003	[禁裏御建物柱石覚等]	/	/	(「中」マーク)	/	横半帳	117 * 167	1	虫損大	42
004	[内裏諸建物木組障子等図面]	/	/	/	/	絵図	276 * 6362	1		171
005	紫宸殿部戸釘鉄物	/	/	/	/	絵図	315 * 456	1		164
006	[常御殿絵図]	/	/	/	/	絵図	299 * 1469	1		204
007	[常御殿絵図]	/	/	/	/	絵図	280 * 775	1	破損あり	205
008	[常御殿絵図]	/	/	/	/	絵図	519 * 570	1		245
009	[常御殿二重小屋・三重小屋絵図]	/	/	/	/	絵図	266 * 244	1		211
010	[常御殿・宮之御殿高欄金物図]	/	/	中井扣	/	絵図	171 * 446	1		206
011	[常御殿・宮之御殿高欄金物図]	/	/	中井扣	/	絵図	275 * 1181	1	彩色あり	418
012	鎔金物図	/	/	中井扣	/	折本	278 * 128	1	彩色あり / 画面あり / 「中」マークあり / 方印5あり	417
013	[御三間御殿平面図]	/	/	/	/	絵図	305 * 428	1		172
014	[御三間御殿諸々絵図寸法]	申2月3日	/	/	/	横帳	117 * 307	1	上棟役付：角井隠岐掾・今村土佐掾・山本近江大掾	173
015	御厨子所御膳所横御所	/	/	/	/	絵図	409 * 554	1		165
016	[禁裏御所長橋局平面図]	/	/	/	/	絵図	380 * 470	1	「四拾壹」とある	174
017	[伶人業屋築庫平面図]	/	/	/	/	絵図	240 * 342	1		244
018	[禁中九門 惣御門正寸書留]	寛政元年7月8日	1789	/	/	横半帳	120 * 171	1	「中」マークあり	45
019	摂家・宮方・堂上方御門留メ	/	/	/	/	絵図	117 * 307	1		209
020	[内裏某門側面図]	/	/	/	/	絵図	278 * 455	1	受入357～361袋一括 / 裏あり	357
021	[内裏襖障子御寮等図面]	6月7日	/	/	/	絵図	277 * 3513	1	部分的に彩色あり / 前欠・後欠	170
022	[禁裏御所部分絵図]	/	/	/	/	絵図	240 * 155	1		166
023	[禁裏諸作事図]	/	/	/	/	綴	445 * 260 / (袋) 300 * 199	1	袋入り	275

024	禁裏御所方具外御普請御用小屋場	天明9年正月	1789	/	/	1	441 * 434	1	御田地小屋場大和郡山城主松平甲斐守(柳沢保光)・日御門外小屋場山城淀城主稲葉丹後守(正謙)・川東吉田領材木奥石井小屋場膳所本田隠岐守(本多康完)・丹州青山下野守(忠裕) 「享保二年酉禁裏御陶垣」とあり	177
025	(禁裏) 鞠懸り	享保2年	1717	/	/	1	123 * 174	1	横半帳	46
026	[牛車御屋体・御宝籠絵図(彩色)]	/	/	/	/	1	253 * 2220	1	絵図	168
027	仙洞御所御上棟式次第	/	/	/	/	1	144 * 1387	1	横紙	182
028	仙洞御所諸御殿御模様替二付建杖	文化13年	1816	/	/	1	571 * 357	1	絵図	184
029	仙洞御書院	/	/	/	/	1	398 * 684	1	絵図	185
030	(仙洞御所表御門滅金金物図)	10月13日	/	/	中井扣	1	277 * 403	1	絵図	419
031	(仙洞御所祇候之間長押図)	文化2年4月	1805	/	/	3	240 * 330	3	絵図	278
032	仙洞御所中門写地割二十一分	明和	/	/	/	1	570 * 562	1	絵図	181
033	瀧殿八ッ橋共絵図	/	/	/	/	1	280 * 401	1	絵図	180
034	後桜町院御事御屋体志件覚	文化10年間11月6日	1813	/	上野	1	123 * 173	1	横半帳 (綴)	51-3
035	東宮御殿五十分一東平鹿絵図	/	/	/	/	1	267 * 583	1	絵図	190
036	[東宮御殿御引移りに付柱本欄飾書付]	/	/	/	/	1	245 * 343	1	折紙	127
037	東宮御殿御湯殿二有	/	/	/	/	1	238 * 339	1	絵図	186
038	[皇后御殿諸殿図]	/	/	/	/	1	458 * 6081	1	絵図	195
039	皇后御殿建杖十分一之写	/	/	/	上野	1	908 * 304	1	絵図	194
040	皇后御殿御造立東山院御田地小屋場絵図	/	/	/	/	1	358 * 381	1	絵図	183
041	皇后御殿浄土控絵図	寛政2年2月11日	1790	/	/	1	277 * 394	1	絵図	193
042	中宮御殿建杖十分一写	/	/	/	/	1	714 * 317	1	絵図	188
043	中宮御殿小屋場絵図	/	/	/	/	1	384 * 367	1	絵図	192
044	[中宮御殿小屋場絵図]	/	/	/	/	1	300 * 111	1	絵図	225
045	中宮御殿木造始役付	文化3年5月15日	1806	/	/	1	149 * 625	1	切紙	126
046	中宮御殿御上棟絵図	/	/	/	/	1	272 * 360	1	絵図	191
047	中宮御殿建具納り絵図	文化	/	/	/	1	291 * 1925	1	絵図	189
048	中宮御殿御床方段建図	子2月	/	/	/	1	265 * 381	1	絵図	109-04

049	御里御殿常御殿事	/	/	/	絵図	310 * 1330	1	40分の1	405	
050	御里御殿十分建状元仕出し	/	/	/	絵図	515 * 462	1	挟み込み1点あり	202	
051	御里御殿御上棟図	/	/	/	絵図	267 * 384	1		187	
052	里御殿常御殿北西軒上り納り等図	/	/	/	絵図	297 * 469	1		201	
053	[大女院御所平面図]	/	/	/	絵図	300 * 468	1		200	
054	大女院御所常御殿二枚之内	/	/	/	絵図	681 * 2803	1	糊剥かれあり	196	
055	女院御所御建杖十分一写	寛政2年	1790	/	絵図	764 * 260	1		197	
056	青綺門院尊儀御葬種山之図	(寛政2年)	1790	/	絵図	300 * 421	1		198	
057	青綺門院御凶事御車御屋体一件	寛政2年2月5日	1790	/	横半帳 (綴)	120 * 171	1	3冊合綴	51-2	
058	青綺門院様御事上台上図十分一	(寛政2年)	1790	/	綴	297 * 576	1		199-1	
059	烏丸女院御所恭礼門院御事御屋体一件	寛政7年12月5日	1795	上野	横半帳 (綴)	123 * 182	1	3冊合綴	51-1	
060	女院御殿御修復里御殿小屋場石絵図	文化14年	1817	/	絵図	355 * 433	1		203	
2 二条城										
061	二条城之図	明治初年	/	/	絵図	728 * 896	1	「谷村」印あり／「地券」な ど付箋あり	240	
062	[二条城御築地寸法に付覚]	/	/	/	堅帳	251 * 333	1		169	
063	[二条城建物覚書]	/	/	/	堅帳	245 * 172	1		267	
064	[二条城東御門木口図]	/	/	/	綴	254 * 343	1		282	
065	[二条城北御門絵図]	/	/	/	綴	246 * 342	1		312	
066	[二条城南御門等寸法覚]	/	/	/	堅帳	248 * 173	1		356	
067	[鴨子御門之図]	/	/	/	絵図	240 * 276	1	糊剥かれあり	274	
3 寺社										
068	祇園本社指図(本殿平面図)	承応2年2月	1653	/	絵図	739 * 702	1		142	
069	賀茂御社御帳台并大床之図	/	/	/	絵図	277 * 1168	1		143	
070	[諸建物節部品絵図]	/	/	/	絵図	246 * 5962	1	「貴布禰」とあり／裏打ちな どに近代の算用帳を使用	145	
071	泉涌寺惣絵図	(天明3年10月)	1783	/	絵図	486 * 1466	1	後桃園天皇女御・盛化門院 (近衛維子) 葬送のものか	76	
072	[般舟院修繕一件]	天保4年9月	1833	/	横半帳	128 * 188	1	表紙外れ	72	
073	洛陽方広寺大仏殿 二百分一図	/	/	/	絵図	360 * 1032	1		131-2	
074	[洛陽方広寺大仏殿 二百分一図 袋か]	/	/	/	袋	322 * 213	1	受人131-2の袋か／表に 「大佛殿地割」との記載あり	131-1	
075	[東福寺山門 四十分一立面図]	/	/	/	絵図	664 * 530	1		136	
076	[真正極楽寺真如堂殿十分一図]	/	/	/	絵図	486 * 582	1	元禄5年以前の様子を描く	426	

077	正法山妙心寺惣指図	/	/	/	/	絵図	720 * 1825	1	糊剥かれ激しい	320
078	[北山鹿苑寺金閣平面図]	/	/	/	/	絵図	471 * 969	1		132
079	東山銀閣本図	/	/	/	/	絵図	275 * 678	1		134
080	[東山慈照寺銀閣 但し妻之方立面図]	/	/	/	/	絵図	436 * 307	1		133
081	[東山慈照寺銀閣 但し平之方立面図]	/	/	/	/	絵図	284 * 295	1		135
082	[諸寺建物図面]	寛政4年6月17日	1792	/	/	絵図	476 * 12441	1	竜安寺・平等院鳳凰堂・知恩院本堂・東寺金堂・隋心院・妙伝寺・北野経王堂・今熊野観音寺/折込あり	144
083	知恩院宮殿庵絵図	/	/	/	/	縦帳	222 * 158	1		141
084	知恩院方丈廻り絵図	/	/	/	/	絵図	542 * 590	1		139
085	知恩院御普請之節御宮殿・同御案共絵図庵案	/	/	/	/	絵図	298 * 2362	1		366
086	知恩院勢至堂座敷二有圍写二十分一	/	/	/	/	絵図	293 * 450	1	20分の1/受人140-2~4 採み込み	140-1
087	勢至堂屋敷二有圍写	/	/	/	/	絵図	182 * 236	1	受人140-1に採み込み	140-4
088	[諸社立面・平面図]	宝永2年9月13日	1705	/	/	絵図	290 * 5342	1	太秦広隆寺太子殿など/裏に「大工権三郎へ」との記載あり	138
089	京太秦石灯笼之図并縁起	/	/	/	/	絵図	316 * 440	1	採み込みあり(「唐戸側ノ水ヨリ五尺六寸上ル水」と朱書き記載)	137
090	稲荷山鹿図	/	/	/	/	絵図	240 * 340	1	伏見稲荷大社境内図/車道・牛道の記載あり	215
091	八幡瀧本坊松花堂本図	/	/	/	/	絵図	238 * 336	1	受人140-1に採み込み	140-3
092	八幡瀧本坊松花堂諸指図	/	/	/	/	横半帳	122 * 173	1	受人140-1に採み込み	140-2
093	寛政度御影堂	/	/	/	/	絵図	580 * 945	1	寛政9年上棟	319
094	寛政度本願寺御影堂	/	/	/	/	絵図	301 * 427	1	受人372~386袋一括	380
095	寛政度柱杖	/	/	/	/	絵図	1388 * 334	1		259
096	[寛政二年再建御影堂材木員数(に付覚)]	(寛政2年)	1790	/	/	横帳	124 * 341	1	寛政2年11月再建/東本願寺か	63
097	御影堂木口絵図	文政12年4月	1829	青木(新助良容)	/	絵図	940 * 913	1	天保4年上棟	314
098	御影堂敷居并二寄敷図	文政12年6月	1829	青木新助(良容)	/	絵図	262 * 1672	1	天保4年上棟	322
099	御影堂初重小屋伏図	(慶応カ)	/	/	/	絵図	633 * 909	1	100分の1	306
100	御影堂向拜丸桁ヨリ上建杖	(慶応カ)	/	/	/	絵図	2214 * 328	1		304
101	[東本願寺御影堂か側面図]	/	/	/	/	絵図	562 * 898	1	糊剥かれ激しい/赤色系シミあり/「一之絵図」/6問あり	252

102	[御内陣・床等金張付二付覚]	/	/	/	縦帳	241 * 174	1		330
103	御影堂下重杖	/	/	/	絵図	1443 * 348	1		369
104	御影堂小屋木口図 (三・四・五重)	/	/	/	絵図	906 * 725	1		335
105	[御影堂御拝摸下絵]	/	/	/	絵図	156 * 352	1		336
106	御影堂宝珠形拾分一	/	/	/	絵図	295 * 249	1		399
107	御影堂廊下腰組	/	/	/	絵図	240 * 328	1		333-1
108	阿弥陀堂宮殿	/	/	/	絵図	1185 * 536	1	10分の1	332
109	本堂御門木寄帳	天保4年5月	1833	/	横帳	120 * 340	1	表紙に「義」方印あり／東本願寺阿弥陀堂	130
110	[阿弥陀堂御門木寄に付覚]	天保4年5月調	1833	肝煎方 (方印)	横帳	123 * 334	1	印文は「義」か／東本願寺か	60
111	[本堂建設に付書上]	天保9年3月	1838	/	横帳	124 * 354	1		129
112	本堂後門口板唐戸方立割正寸法	/	/	/	絵図	389 * 480	1	受人372～386袋一括	381
113	御本堂杖 (断簡)	/	/	/	絵図	270 * 396	1	受人372～386袋一括	385
114	大谷御堂屋榎御修覆二付御休息所仮御堂之図	天保12年7月	1841	/	絵図	591 * 690	1		334
115	[諸参詣湯飯家建図]	/	/	/	絵図	528 * 698	1		421
116	寛政度寢殿図	/	/	/	絵図	720 * 622	1	東本願寺か	77
117	(東本願寺) 寛政度大寢殿	/	/	/	絵図	622 * 712	1	裏面の隅に「カ」の記載あり	176
118	(東本願寺) 天保度小寢殿東妻	/	/	/	絵図	543 * 1294	1		167
119	御玄関大寢殿木口絵図	天保3年11月吉日	1832	/	絵図	647 * 770	1		316
120	小寢殿并御能舞台木口指図	/	/	/	絵図	591 * 541	1		321
121	白書院御治定絵図	/	/	/	絵図	504 * 712	1	糊剥かれ激しい／破れあり／「義」印あり	308
122	白書院建杖	(文政～天保期か)	/	義忠 (中江定治郎)	絵図	1186 * 262	1	10分の1	323
123	[白書院廊間平面図]	/	/	/	絵図	320 * 493	1	一部起こし絵図	329
124	白書院敷舞台柱取置之図	/	/	/	絵図	321 * 482	1	挟み込みあり	331
125	白書院木寄	巳10月	/	(方印)	横帳	124 * 332	1	印文は「義」か	64
126	白書院木口之図	/	/	/	絵図	271 * 376	1		325
127	白書足堅又柱内法寸法事	/	/	/	絵図	322 * 486	1		328
128	[白書院金物に付覚]	/	/	/	横帳	125 * 333	1		65
129	[白書院棟瓦]	/	/	/	絵図	302 * 490	1	10分の1／裏文書あり／背面に長屋入口新設絵図あり	339
130	仮白書院後源氏之間二相成御柵	9月30日	/	/	絵図	271 * 606	1		327
131	本願寺黒書院	/	/	/	絵図	270 * 402	1	50分の1	307

132	黒書院	/	/	/	/	絵図	273 * 406	1		326
133	(黒書院等) 床力高絵図	/	/	/	/	絵図	302 * 466	1		324
134	能舞台東正面之図	/	/	/	/	絵図	844 * 1238	1	10分の1	317
135	能舞台木口指図	/	/	/	/	絵図	265 * 1103	1	「義」印あり	318
136	楼之間 平 拾分一	/	/	/	/	絵図	606 * 2256	1	糊刺かれあり	260
137	東本願寺御殿之図	正徳2年8月 (慶応カ)	1712	/	/	絵図	432 * 579	1		305
138	[東本願寺御殿平面図]		/	/	/	絵図	2681 * 2343	1	大門以北を描く／彩色／仮御影堂・菊御門・千鳥之間・蘇鉄山・拾三窓土蔵などあり／破損あり	302
139	[東本願寺屋敷絵図]	/	/	/	/	絵図	1062 * 1145	1	「十三窓石垣」／「義」印・「■」印(印文不明)あり	247
140	[御殿奥向絵図]	/	/	/	/	絵図	898 * 760	1	彩色あり／受人423に同じ	424
141	[御殿奥向絵図]	/	/	/	/	絵図	849 * 760	1	受人424に同じ	423
142	御興寄向公之間・御汗煎候所預部屋・取次詰所・御台所・清同北廊下・右廻郎取合屋根図・再三伊減改	/	/	/	/	絵図	413 * 522	1		208
143	御廊所入口御唐門并透塀共建地割	大正元年12月中旬	1912	上野伊三郎	/	絵図	800 * 1100	1		309
144	御台所小出シ廻リ御上段廻リ	/	/	/	/	絵図	575 * 683	1	「中」マークあり／「義」印あり	311
145	[手水廻り手桶屋形井戸屋形等絵図]	/	/	/	/	絵図	315 * 3396	1		313
146	[御台所木口絵図]	/	/	/	/	絵図	942 * 397	1		257
147	[御台所小屋組規模に付覚]	/	/	/	/	横帳	120 * 343	1		62
148	御上目御蔵木寄工敷日記	/	/	(方印)	/	横帳	123 * 330	1	印文は「義」か	61
149	[御門絵図]	/	/	/	/	絵図	398 * 267	1		333-2
150	本堂御門二十分一御地面之図	/	/	/	/	絵図	239 * 995	1		315
151	東寄唐門正面図	明治44年	1911	上野伊三郎	/	絵図	561 * 792	1	鉛筆書き込みあり	251
152	御建具納り木口御図	/	/	/	/	絵図	307 * 8778	1	「中江氏」	178
153	上棟新始絵図書付入	/	/	中江	/	袋	290 * 202	1		199-5
154	[柱文様二付覚]	/	/	/	/	絵図	250 * 393	1	受人357～361袋一括／裏あり／向御堂御興之図(天保6年3月)	359
155	下之重土居牛引之國附絵図	(慶応カ)	/	/	/	絵図	280 * 406	1		303

156	[比叡山・坂本諸堂図]	/	/	/	/	巻子	304 * 6229	1	根本中堂・大講堂・前唐院堂・戒壇院堂・坂本滋賀院など／巻き込みあり／巻き込みに「中江氏」・「義」印あり／一部に裏あり	407
157	[坂本御本地堂絵図]	/	/	/	/	絵図	238 * 334	1		153
158	比叡山建物雛形	/	/	/	/	絵図	268 * 1558	1	「中」マークあり／目録には西塔釈迦堂のほか大講堂などあり	148
159	[比叡山相輪様雛形]	/	/	/	/	絵図	402 * 1482	1		151
160	比叡山根本中堂菊棟十分一	/	/	/	/	絵図	270 * 373	1	裏に手間賃書上あり	150
161	根本中堂北妻四十分一	/	/	/	/	絵図	653 * 924	1	「中井伊織之写」を抹消して いる	152
162	根本中堂北妻 (四十分一・断簡)	/	/	/	/	絵図	203 * 909	1		387
163	[比叡山根本中堂葺段]	/	/	/	/	絵図	179 * 289	1	絵柄雑か	147
164	山門根本中堂瓦銅方 銅瓦やね積り値段	/	/	/	/	横半帳	120 * 318	1	後半は人数書上げあり	119
165	[唐崎鳥居・根本中堂等雛形]	/	/	/	/	横半帳	122 * 171	1		149
166	[西塔釈迦堂屋根寸法覚]	文化12年6月	/	/	/	横半帳	126 * 173	1		48
167	[横川中堂野帳]	/	/	/	/	野帳	242 * 167	1	綴あり	128
168	石山寺本堂脇二有之源氏之間 二十一分一図写	/	/	/	/	絵図	331 * 476	8	壁面図等挟み込みあり	154
169	長谷寺本堂敷石之図	/	/	/	/	絵図	765 * 963	1		155
170	長谷寺本堂木口図	/	/	/	/	絵図	456 * 330	1		156
171	三輪之図	/	/	/	/	絵図	141 * 112	1	大三輪神社境内図	279
172	喜光寺須弥壇	/	/	/	/	絵図	166 * 190	1	受人372～386袋一括／「菅原寺」を修正／画紙穴2あり	384
173	紀伊国東牟婁郡新宮鎮座熊野早玉神社略図	(近代)	/	/	/	刷物	345 * 459	1	明治16年9月9日炎上以前を示す (発行はそれ以降)	159
174	(高野山) 大塔足代木口図并大工手間書抜	寛永20年6月7日	1643	/	/	絵図	730 * 707	1		157
175	推古天皇勅願所西国第一番札所略図	明治30年5月	1897	/	/	刷物	380 * 523	1	青岸渡寺蔵版	158
176	[四国第十九番靈場阿波国立江寺多宝塔縮図]	/	/	/	/	印刷	267 * 198	1	(立江寺)	160
177	日光塔之写 三十分一	寛永元年4月1日	1624	/	/	絵図	343 * 470	1	三重塔 (貞享元年焼失) か	161
178	日光塔之図	/	/	/	/	絵図	554 * 800	1	30分の1	162-4
179	日光塔之図	/	/	/	/	絵図	557 * 800	1	30分の1	162-5
180	日光山獻備五重塔建地割	(近代)	/	/	/	絵図	748 * 351	1		163

4 茶室など											
181	[武野紹鷗大黒庵四帖半図]	/	/	/	/	/	絵図	397 * 280	1	武野紹鷗略歴記述あり	113
182	[裏千家利休堂茶室図]	/	/	/	/	(印：上野)	絵図	339 * 241	1		109-14
183	(仙洞御所) 醒花亭御茶室	/	/	/	/	(印：上野)	絵図	267 * 314	1	受人109-1～受人109-20 帙一括	109-01
184	(仙洞御所) 艦水亭御茶室絵図	/	/	/	/	(印：上野)	絵図	282 * 403	1		109-02
185	(仙洞御所) 寿山御茶室絵図	/	/	/	/	(印：上野)	絵図	418 * 400	1		109-10
186	(仙洞御所) 寿山御茶室絵図	/	/	/	/	/	絵図	419 * 402	1	受人117-1～8 巻込一括	117-5
187	[修学院離宮窮邊軒絵図]	/	/	/	/	/	絵図	240 * 187	1	受人117-2-1～6 包紙一括	117-2-6
188	数寄屋図 [誓願寺塔頭竹林院二有]	/	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	起こし 絵図	312 * 211	1	古田織部好	111
189	利休好北野高林寺水屋之寸法	/	/	/	/	/	絵図	176 * 228	1		109-20
190	数寄屋図 [高台寺方丈二有]	/	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	起こし 絵図	291 * 305	1	小幡遠州好	105
191	聖護院御茶室木口	/	/	/	/	/	絵図	237 * 187	1	受人117-1～8 巻込一括	117-6
192	黒谷西翁院反古庵西園建地割	文化9年11月下旬	1812	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	絵図	276 * 170	1	20分の1 / 黒谷西翁院反古庵藤村庸軒作	108-2
193	[弧蓬庵絵図]	/	/	/	/	/	絵図	249 * 349	1		109-03
194	大徳寸法弧蓬庵容殿南東之方北向二有編笠門	/	/	/	/	/	絵図	266 * 378	1		109-05
195	[妙心寺大通院小座敷茶室絵図]	/	/	/	/	(印：上野)	起こし 絵図	313 * 151	1	遠州好	109-16
196	数寄屋図 [宇治上林]	/	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	起こし 絵図	309 * 182	1	藤村庸軒好	107-1
197	[八幡瀧本坊并付書院二十分一図]	/	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	起こし 絵図	331 * 236	1		110
198	[八幡瀧本坊二有] 数寄屋之図	/	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	起こし 絵図	250 * 152	1	閑雲軒	106
199	[八幡山瀧本坊] 数寄屋図	/	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	起こし 絵図	378 * 188	1		104-1

200	[八幡瀧本坊] 数寄屋図	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	起こし 絵図	386 * 266	1	松花堂好 / 8帖茶立処	112
201	大山崎妙喜庵利休数寄屋寸法	/	/	/	(印：上野)	/	綴	284 * 207	1		109-15
202	川上白茶室八畳敷図	/	/	/	/	/	綴図	389 * 279	1	50分の1 / 安立寺 (台東区) にあり	115
203	[原十郎兵衛数寄屋] 二畳大目之図	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	起こし 絵図	315 * 174	1	一等齋宗政好 (松尾流)	103
204	[原叟茶室三畳半図]	/	/	/	/	/	絵図	394 * 279	1	50分の1 / 原叟は、覚々齋宗左 (表千家)	114
205	[三浦邸普請絵図]	/	/	/	/	/	起こし 絵図	339 * 246	1		109-09
206	可屋二十一分一難形	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	起こし 絵図	289 * 191	1		108-3
207	二帖大目囲図	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	起こし 絵図	242 * 163	1	頂妙寺常住院	108-4
208	[某茶室絵図]	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	起こし 絵図	293 * 138	1	受人108-1 ~ 受人108-4 帙一括 / 利休床あり	108-1
209	[某茶室絵図]	/	/	/	/	/	起こし 絵図	300 * 141	1		109-12
210	[某茶室図]	/	/	/	/	/	起こし 絵図	321 * 153	1		109-13
211	[某茶室絵図]	/	/	/	/	/	絵図	339 * 246	1		109-08
212	[某茶室絵図]	/	/	/	/	/	絵図	240 * 340	1		109-11
213	[某茶室絵図]	/	/	/	/	/	絵図	151 * 247	1		109-06
214	[某茶室起し絵図断簡]	/	/	/	/	/	断簡	310 * 190	55	法量は、55点をまとめた状態	427
215	[床の間起こし絵図]	/	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	起こし 絵図	250 * 276	1	受人117-2-1 ~ 6 包紙一括	117-2-3
216	[床の間絵図]	/	/	/	/	/	絵図	242 * 252	1	受人117-2-1 ~ 6 包紙一括	117-2-4
217	[床の間起こし絵図外れ]	/	/	/	/	/	絵図	220 * 174	1	受人117-2-1 ~ 6 包紙一括 / 記号「ヌ」「ツ」あり / 中央部切り抜きあり	117-2-5

218	(包紙)	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	包紙	299 * 396	1	包紙あり、「茶座敷木口絵図類」「茶座敷絵図」「洞」(朱書)あり/受入117-1~8巻込一括/受入117-2-1~6包紙一括	117-2-1
219	露地清茶規約(写)	天正12年9月3日	1584	南坊(宗啓)判(印：上野)	/	豎紙	217 * 316	1	「遠州公好ふしミ御役所御座敷、世二ひやうたん之間ト云」とあり(法量はこれで代表させる)/受入117-1~8巻込一括	107-2
220	宇治上林書院園図	/	/	/	/	絵図	277 * 167	15	5枚貼継/はがれ/受入117-1~8巻込一括	117-3
221	宇治上林二有之古田織部正好書院乃庭図	/	/	/	/	絵図	550 * 698	5	ヤウケン好	117-4
222	(宇治上林茶室露地絵図)	/	/	(印：上野)	/	絵図	273 * 400	1	受入372~386袋一括	104-2
223	(宇治上林露地待合寸法書上)	/	/	/	/	豎帳	252 * 173	1		374
224	(待合雛形)	/	/	(印：上野)	/	豎帳	250 * 175	1		109-17
225	(利体形待合図)	/	/	/	/	絵図	245 * 339	1		109-19
226	園図	/	/	(印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助)	/	絵図	229 * 290	1	南禅寺金地院にあり/受入117-1~8巻込一括	117-1
227	入目録	/	/	/	/	絵図	262 * 382	1	受入117-1~8巻込一括/弧違庵待合等記述あり	117-7
228	(某庭絵図)	/	/	/	/	絵図	307 * 455	1	受入117-1~8巻込一括/九重石塔あり/包紙として受入117-1~7を包んでい	117-8
229	露盤宝珠之事	/	/	/	/	絵図	279 * 195	1	久田好	116
230	(■之間・橋掛り絵図)	/	/	/	/	絵図	322 * 490	1	焼損あり/受入117-2-1~6包紙一括	117-2-2
5	近代建築									
231	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室平面之図	/	/	上野伊助	/	絵図	682 * 883	1	第一号/100分の1	78
232	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室側面及正面之図	/	/	上野伊助	/	絵図	550 * 792	1	第三号/100分の1	79
233	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室背面之図	/	/	上野伊助	/	絵図	572 * 876	1	第三号/100分の1	80
234	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室規矩計及ビ小屋組之図	/	/	上野伊助	/	絵図	670 * 953	1	第四号/20分の1	81

235	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室中 央正面破風之図	/	/	上野伊助	/	絵図	788 * 938	1	第五号 / 20分の1	82
236	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室廊 下昇降口図	/	/	上野伊助	/	絵図	610 * 792	1	第六号 / 20分の1	83
237	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室昇 降口唐戸図	/	/	上野伊助	/	絵図	790 * 575	1	第七号か / 10分の1	84
238	京都帝国大学理工科大学土木機械学等唐戸之 図	/	/	上野伊助	/	絵図	658 * 936	1	第八号 / 10分の1 / テープ 貼り修復	85
239	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室小 屋伏及び床組図	/	/	上野伊助	/	絵図	703 * 792	1	第九号か / 100分の1	86
240	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室軒 廊等之図	/	/	上野伊助	/	絵図	498 * 918	1	第十号 / 10分の1・20分 の1	87
241	京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室土 木講義室	/	/	上野伊助	/	絵図	664 * 905	1	十一 / 20分の1	88
242	京都婦人慈善会附属慈愛手芸女学校校舎建設 仕様注文書	/	/	/	/	綴	278 * 392	1	野紙と絵図3葉を綴る / 上 野用紙を使用	89
243	東鴨監獄署新築建物配置之図	/	/	/	/	絵図	623 * 463	1	1200分の1	90
244	警察本署及県会議場入口拾分之宅図 (明治)	/	/	/	/	絵図	718 * 445	1	10分の1	230
245	〔二層書院正面図〕	/	/	/	/	絵図	532 * 879	1	25分の1・4分の1尺 / 彩 色あり	255-2
246	〔二層書院側面図〕	/	/	/	/	絵図	532 * 747	1	25分の1・4分の1尺 / 彩 色あり	255-1
247	〔火床・触火面二付某書状〕	9月21日	/	■ 一郎拜	雄存君	野紙	182 * 296	1	受人372 ~ 386袋一括 / 鉛 筆書き	372
248	焚口鋳物ノ図・サナ正寸図・竈焚口十分ノ一 図	/	/	/	/	絵図	273 * 386	1	受人372 ~ 386袋一括	373
249	〔竈正面図〕	/	/	/	/	絵図	272 * 386	1	受人372 ~ 386袋一括 / 10分の1 / 鉛筆書き	376
250	竈全形中央ヨリ切斷シタル者	/	/	/	/	絵図	253 * 613	1	受人372 ~ 386袋一括 / 378と関連	377
251	竈上部ヲ示シタル者・竈底ヨリ切斷シタル者	/	/	/	/	絵図	251 * 500	1	受人372 ~ 386袋一括 / 受 入377と関連	378
6 雛形類										
252	〔諸寺諸堂宇等図写〕	寛政5年正月下旬	1793	上野	/	整帳	285 * 223	1		68
253	〔建築雛形 第三号〕	/	/	(「中」マーク)	/	横半帳	135 * 201	1	「上野」朱丸印あり	56

254	[建築絵様 第四号]	/	/	/	/	横半帳	121 * 176	1	「上野」朱丸印あり／唐招提寺五重塔（1802年焼失）の記述有	39
255	[建築雛形 第五号]	/	/	/	/	横半帳	131 * 197	1	「上野」朱丸印あり／「関」字青印あり	57
256	[建築雛形 第六号]	/	/	/	上野氏	横半帳	127 * 184	1	「上野」朱丸印あり／「関」字青印あり	58
257	第三号 日本建築雛型集	(近代)	/	上野氏／森川和平治	/	横帳	247 * 446	1	「上野」印あり／部材文様集／紙背あり	70
258	[諸堂宇雛形]	/	/	/	/	折本	270 * 158	1		75
259	新撰大工雛形 宮形一・門形二・堂形三・塔形四	明治19年10月写	1886	谷口末吉	/	横半帳	143 * 200	4	法量は一卷で取った／外題は「新撰雛形」	52～55
260	神明造り宮（雛形）	/	/	/	/	絵図	273 * 385	1	裏文書あり	346
261	神明造破風総様	/	/	/	/	絵図	340 * 248	1	「谷口」印あり	283
262	見世棚流シ造社 拾分一之図	/	/	谷口季吉	/	絵図	349 * 270	1		349
263	見世棚流シ造社 拾分一之図	/	/	/	/	絵図	325 * 253	1		350
264	見世棚流シ造社 平之図	/	/	谷口季（末吉）	/	絵図	356 * 266	1		291
265	見世棚流シ造社 平之図（下絵）	/	/	季（末吉）	/	絵図	318 * 231	1	受人291の下絵	269
266	見世棚流シ造社	/	/	（印：谷口）	/	絵図	266 * 379	1		362
267	見世棚流シ造社・高麗門（雛形）	/	/	久田／（印：久田）	/	絵図	274 * 396	2		352
268	八幡神社 拾分一・同妻之図	/	/	上野	/	絵図	298 * 433	1	裏文書あり	397
269	天道社 十分一平	文政3年12月21日	1820	/	/	絵図	1176 * 278	1		199-2
270	裏之図（天道社カ）	/	/	/	/	絵図	373 * 710	1	外れあり	199-3
271	〔一間社側面図〕	/	/	/	/	絵図	313 * 476	1		199-4
272	千木勝男木（雛形）	/	/	/	/	絵図	270 * 388	1		347
273	鳥居・華表	/	/	上野	/	絵図	240 * 318	1		295-03
274	〔鳥居雛形〕	/	/	（印：谷口）	/	絵図	245 * 334	1		343
275	鳥居	/	/	末吉	/	絵図	240 * 301	1		295-04
276	鳥居	/	/	末吉	/	絵図	240 * 301	1		295-05
277	表華・鳥居共書	/	/	/	/	絵図	246 * 329	1	「久田」印・「好」方印あり／裏文書あり（明治36年、和泉講）	394
278	〔本堂正面図〕	/	/	/	/	絵図	300 * 465	1	裏文書（近代）あり	289
279	御本廟側面図	(近代)	/	/	/	絵図	560 * 795	1	20分の1	310
280	〔本堂下絵〕	/	/	/	/	絵図	283 * 422	1	裏文書（近代）あり	288

281	[須弥檀図]	/	/	/	/	278 * 378	1	「鎌田」印あり／裏に朱書き「八印」あり	256
282	三間拜殿	明治10年2月28日	1877	村山勝次郎	/	667 * 1620	1	13分の1／朱引きあり／糊剥かれ激しい	99
283	壹間拜殿	/	/	村山勝治郎	/	530 * 557	1	10分の1／朱引きあり	101
284	[客殿七間堂等側面図見本]	/	/	/	/	282 * 399	1	横帳	337
285	廣間	明治9年7月	1876	(村山勝治郎)	/	640 * 942	1	20分の1／朱引きあり	91
286	奥院正面妻入之図	/	/	/	/	677 * 1560	1	「本社」とあり	338
287	宝形造り	明治9年11月	1876	村山勝次郎	/	1006 * 1026	1	10分の1／朱引きあり	93
288	[二階楼立面図]	大正2年3月9日	1913	上野伊三郎	/	558 * 795	1	原図は俣野氏蔵	342
289	[五重塔構造図]	/	/	/	/	790 * 279	1	上部欠	403
290	[五重塔尺杖]	/	/	/	/	1851 * 277	1	糊剥かれ激しい／上下欠	388
291	[三重塔正面図]	/	/	/	/	1048 * 404	1	糊剥かれ激しい	401
292	[三重塔片側内部正面図]	/	/	/	/	279 * 531	1	端裏に朱書「廿七之内」	402
293	塔離形	/	/	/	/	291 * 2785	1	折本 印あり／裏あり／「中江蔵」あり	404
294	[多宝塔正面図]	/	/	/	/	665 * 342	1	糊剥かれ激しい／裏あり	400
295	[多宝堂側面図]	/	/	/	/	858 * 1053	1	糊剥かれあり	370
296	三間梁左右庇付庫裏	/	/	/	/	233 * 334	1	一部訂正貼付あり	290
297	四ツ脚鐘楼	/	/	/	/	263 * 356	1		395
298	能楽舞台正面 貳拾分志図	/	/	/	/	491 * 788	1		253
299	能楽舞台脇面 貳拾分志図	/	/	/	/	521 * 742	1		254
300	所長塾屋	明治10年12月	1877	村山勝治郎	/	498 * 1234	1	20分の1／朱引きあり	98
301	三手先結組手洗屋形	明治13年3月	1880	村山勝治郎 (印)	/	614 * 638	1		100
302	手洗屋形 (雛形)	/	/	/	/	266 * 389	1		344
303	土蔵戸前図	/	/	谷口季吉	/	275 * 952	1		348
304	平一間大門 (雛形)	明治10年6月	1877	/	/	271 * 380	1	裏文書あり	340
305	平志間大門	明治10年8月1日	1877	村山勝次郎	/	830 * 1860	1	10分の1／朱引きあり	96
306	二王門腰屋根付大門 (雛形)	/	/	/	/	898 * 419	1	欠損大	341
307	四脚門正面図	大正2年1月中旬	1913	上野伊三郎	/	550 * 795	1	20分の1／「虹梁墓股等の 絵様ハ略下御霊神社現在の 物に依る」と記載あり／破 損あり	162-1
308	四脚門側面図	大正2年1月中旬	1913	上野伊三郎	/	551 * 800	1	20分の1／破損あり	162-2

309	薬医門	明治10年6月1日	1877	村山勝次郎	/	絵図	635 * 1426	1	10分の1 / 朱引きあり	95
310	薬医門事	/	/	久田	/	絵図	251 * 376	1		396
311	高麗門	明治9年10月	1876	村山勝治郎	/	絵図	638 * 1281	1	10分の1 / 朱引きあり	92
312	平唐門	明治10年1月2日	1877	村山勝次郎	/	絵図	632 * 1045	1	10分の1 / 朱引きあり / 切替えあり	94
313	白唐門	明治10年10月25日	1877	村山勝次郎	/	絵図	610 * 1142	1	10分の1 / 朱引きあり	97
314	朱雀門	/	/	(村山勝治郎)	/	絵図	625 * 2503	1	13分の1 / 朱引きあり	102
315	朱雀門	/	/	/	/	絵図	271 * 387	1	受入357~361袋一括 / 裏あり	360
316	[惣門雛形]	/	/	/	/	絵図	268 * 380	1	受入357~361袋一括 / 裏あり	358
317	[門雛形]	/	/	/	/	絵図	275 * 304	1	裏あり	353
318	塀重門之事	/	/	谷季 (印: 谷口)	/	絵図	245 * 336	1		292
319	塀重門二腰塀	/	/	久田 (印)	/	絵図	205 * 278	1		295-06
320	塀重門二腰塀	/	/	(印: 谷口)	/	絵図	211 * 293	1		295-07
321	[透塀側面図]	/	/	/	/	絵図	337 * 239	1		296
322	大門木割寸法留メ	/	/	(「中」マーク)	/	横半帳	120 * 163	1	(某寺金堂野帳)	38
323	反り橋二十分一	/	/	/	/	絵図	591 * 1060	1		258
324	絵様紅梁類集	/	/	/	/	絵図	238 * 7437	1	奥に「伏見深草寺」平面図あり	146
325	[紅梁諸文様雛形]	/	/	/	/	卷子	277 * 6811	1	下部水損・汚れあり	408
326	絵様雛形	明治19年3月	1886	谷口末吉 / 上京区第卅壹組末丸町谷口季吉	/	横半帳	123 * 169	1	狭みこみ有	50
327	絵様雛形	(近代)	/	上京区第卅一組末丸町谷口末吉 / 谷口季吉	/	横半帳	134 * 192	1		49
328	[諸文様下絵集]	/	/	/	/	絵図	255 * 13994	1	「中」マークあり / 裏あり / 末尾裏に「中江」方印あり	272
329	[彫物下絵]	/	/	/	/	絵図	340 * 241	1		273
330	[彫物文様下絵]	/	/	/	/	絵図	244 * 338	1		286
331	[彫物文様雛形]	/	/	/	/	絵図	208 * 300	1	裏文書あり	345
332	[唐草彫型紙]	/	/	/	/	絵図	154 * 214	1	裏あり / 「大武」・「大久」	354
333	[唐草彫型紙]	/	/	/	/	絵図	277 * 410	1	裏あり / 「伊勢谷伊兵衛」・「砂糖」	355
334	[天女彫物図案]	/	/	/	/	絵図	281 * 2442	1		371

335	[獅子下絵]	/	/	/	/	絵図	135 * 380	1		298
336	[獅子等下絵]	/	/	/	/	絵図	168 * 333	1		415
337	[彫物下絵]	/	/	/	/	絵図	127 * 594	1		410
338	[彫物下絵]	/	/	/	/	絵図	241 * 178	1		416
339	[墓股手狭等彫物下絵]	/	/	/	/	絵図	271 * 3898	1		365
340	[斗・墓股下絵]	/	/	/	/	断簡	215 * 117 / 105 * 187	2		425
341	[懸魚下絵]	/	/	/	/	絵図	545 * 787	1		391
342	[木鼻下絵]	/	/	/	/	絵図	240 * 157	1		413
343	[鯨下絵]	/	/	/	/	絵図	164 * 130	1		409
344	[擬宝珠下絵]	/	/	/	/	絵図	344 * 248	1		414
345	[上棟具手本]	/	/	/	/	絵図	453 * 325	1		389
346	床コ欄廻り雛形(袋)	/	/	/	/	袋	289 * 200	1	受入357~361袋一括/裏あり	361
347	[襖引手雛形]	/	/	/	/	絵図	279 * 1820	1	糊剥かれあり	364
348	[減金金物図]	/	/	/	/	絵図	275 * 787	1	彩色あり/糊剥かれあり	420
349	[引手金具寸法]	/	/	/	/	絵図	244 * 975	1	穴あり	393
350	[手挿文様下絵]	/	/	/	/	絵図	249 * 341	1		297
351	[手挿文様埋紙]	/	/	/	/	絵図	172 * 223	1	通帳再利用	299
352	[諸図面下絵]	/	/	/	/	横帳	140 * 279	1		390
353	[車寄正面図]	明治43年10月16日	1910	上野伊三郎	/	絵図	563 * 795	1		162-3
354	玄関之図	大正2年5月	1913	上野伊三郎	/	絵図	555 * 800	1	「規矩実修養生所手本之写」	363
355	[唐戸扉板図]	/	/	季(印:谷口)	/	絵図	244 * 334	1		265
356	[唐戸扉板図]	/	/	/	/	絵図	244 * 324	1	受入265の写し	280
357	二間南表扉戸口	/	/	/	/	絵図	241 * 340	1		271
358	外繫(二正建)	/	/	/	/	絵図	239 * 341	1	受入372~386袋一括	383
359	[厩絵図]	/	/	/	/	絵図	260 * 554	1	一部鉛筆	398
360	[二階建物軒断面図]	/	/	/	/	絵図	386 * 271	1	受入372~386袋一括	382
361	[某御殿勝手方]	/	/	/	/	絵図	552 * 770	1	挟み込みあり(関係不明)	422
362	御居間拾帖東側御柵正面之図	/	/	/	/	絵図	270 * 291	1		295-01
363	銅瓦	/	/	/	/	絵図	242 * 282	1		295-09
364	違柵并透シ類集	/	/	/	/	折本	247 * 112	1		73
365	御柵金物打所何絵図	/	/	/	/	絵図	255 * 371	1	貼紙1点あり/彩色あり	287
366	[惣金箔厨子図]	/	/	/	/	絵図	238 * 337	1		270
367	掛子造之事	/	/	谷季(末吉)	/	絵図	244 * 334	1		295-02

368	[御石燈籠・御花瓶台図]	/	/	/	/	絵図	266 * 345	1		281
369	下之道十分一	/	/	/	/	絵図	240 * 380	1	10分の1	351
370	御木造始絵図	/	/	/	/	絵図	278 * 398	1		179
371	[供物・幣・飾等書上]	/	/	/	/	壁紙	167 * 242	1	上棟	122
372	[幣紙槌等図]	/	/	/	/	折紙	237 * 337	1	上棟	121
373	[槌図]	/	/	/	/	折紙	238 * 315	1	上棟	120
374	柱根継覚帳	/	/	/	(谷口)末吉(印)	横半帳	140 * 192	1	「谷口」朱丸印あり	47
375	柱面之事	/	/	/	/	絵図	120 * 330	1		295-08
376	[柱組図]	/	/	/	/	絵図	335 * 249	1		295-10
377	[柱根巻に付覚]	/	/	/	/	綴	126 * 347	1		59
378	[長押伏図]	/	/	/	/	絵図	397 * 265	1	断簡/彩色あり	285
379	[屋根伏図]	/	/	/	/	絵図	746 * 638	1	糊剥かれ激しい/欠損あり/彩色あり	266
380	[屋根伏図下書]	/	/	/	/	絵図	890 * 908	1	裏に「不中(カ)」とあり	406
381	[軒平面図雛形]	/	/	/	/	絵図	190 * 455	1		411
382	[軒断面図]	/	/	/	/	絵図	280 * 406	1	ち〜わ	293-1
383	[井筒桁間木落掛り掻様]	/	/	/	谷口季(末吉)	絵図	258 * 365	1	「上野」印あり/秋み込み2点あり	262
384	[軒断面図]	/	/	/	/	絵図	280 * 402	1	せ〜西	293-2
385	[屋根軒組雛形]	/	/	/	/	折本	318 * 144	1	前欠/受入368接続か	367
386	[屋根軒組雛形]	/	/	/	/	折本	291 * 148	1	後欠/受入367接続か	368
387	[軒先組図]	/	/	/	/	絵図	313 * 424	1	朱文方印「木+青」あり/断簡	268
388	クセ物扇垂木雛形	/	/	/	上野	折本	277 * 149	1	「上野」印あり	74
389	上重生首拵	/	/	/	/	絵図	1406 * 313	1	糊剥かれあり	263-1
390	[上重異隅牛首拵東流南流図]	/	/	/	/	絵図	310 * 453	1		263-2
391	[某木組絵図]	/	/	/	/	絵図	312 * 468	1		109-18
392	[組物下絵]	/	/	/	/	絵図	267 * 326	1		412
393	東階段登り高欄之割	/	/	/	/	絵図	266 * 419	1	断簡か	277
394	[某部材絵図]	/	/	/	/	絵図	433 * 1742	1		261
395	[某部材絵図]	/	/	/	/	絵図	1156 * 232	1	4枚に糊剥かれ	276
396	[瓦類拵本等一括]	/	/	/	/	絵図	最大41.5 * 56.2	31	拵本、鉛筆デッサン、乾拓/葵文あり/「唐破風中」「唐破風左」などと記す	294
397	[金具唐草文様拵本]	/	/	/	/	絵図	174 * 220	1		300
398	[絵図雛形入帙]	明治27年11月	1894	蘭香蔵	/	帙	779 * 816	1		301

399	[五冊之内] 小坪規矩	寛政2年3月15日	1790	/	横半帳	125 * 175	1	「中」マーカーあり／道具類の寸法を記す	43	
400	[五冊之内] 柵雛形	寛政2年3月11日	1790	/	横半帳	123 * 173	1	表紙破損あり／「中」マーカーあり	44	
401	建家地坪数取様打	明治19年8月吉日	1886	谷口末吉	縦帳	248 * 170	1	「谷口」朱丸印あり	67	
402	[開平方算盤に付寛]	/	/	/	横半帳	125 * 176	1	破損あり	40	
7 不明建築										
403	拾八番対屋女中局上家下家其外附物共	/	/	/	絵図	260 * 655	1	みせ消ちあり	210	
404	客殿小屋伏指図	/	/	/	絵図	332 * 480	1	貼り付けあり	250	
405	[某屋敷絵図]	/	/	/	絵図	713 * 1498	1	式台2箇所あり	207	
406	[某屋敷絵図]	/	/	/	絵図	776 * 734	1	上段・老女・中老・御朱殿あり	248	
407	[某屋敷絵図]	/	/	/	絵図	335 * 329	1	役所・火ノ見・大書院・台所あり	249	
408	[御殿平面図断簡]	/	/	/	絵図	295 * 470等	14	受入372～386袋一括	386-1	
409	[御殿平面図断簡]	/	/	/	絵図	125 * 116等	2	受入372～386袋一括	386-2	
410	[御殿平面図断簡]	/	/	/	絵図	256 * 215等	2	受入372～386袋一括	386-3	
411	[御殿平面図断簡]	/	/	/	絵図	087 * 134	1	受入372～386袋一括	386-4	
412	[某尺杖図]	/	/	/	絵図	391 * 276	1	上下欠	226	
413	[某尺杖]	/	/	/	絵図	401 * 140	1	筆書き／籠断面図か	392	
414	[不明図面]	/	/	/	絵図	268 * 372	1	受入372～386袋一括／鉛筆書き／籠断面図か	375	
8 典籍										
415	[大工] 新撰雛形 宮形一・門形二・堂形三・塔形四・絵様五	宝暦9年秋(刊) / (明治再版か)	1759	書林・東京日本橋南町町目・須原屋茂兵衛蔵板／千鐘屋梓(序)木替甚七(定賢)	典籍	260 * 180	5	法量は一篇で取った／彫工佐脇庄兵衛／序は宝暦8年末秋／巻一・三・五に挟み込みあり／五篇に「製本師鹿野氏」朱方印あり	10～14	
416	[新撰早引] 匠家雛形 上 鳥居及門	嘉永4年冬(序)	1851	本林常将著／東都書林千鐘房・一貫堂合梓	典籍	224 * 154	1	「村山」朱丸印あり	6	

417	[新撰早引] 匠家雛形二篇 上・下	明治8年5月27日	1875	本林常将著／東都書林千鐘房・一貫堂合梓／発兌・東京日本橋通壹丁目・北品茂兵衛／書林・同(東京)飯倉町五丁目・鈴木忠藏梓	／	典籍	224 * 154	2	法量は上巻で取った／発行年月日は三編のもの。初編は嘉永4年11月、2編は安政3年8月出版／序は安政3年中秋／上巻に「村山」朱丸印、下巻に「上野」朱丸印あり／本林常将(重之助)は、盛岡住	7・8
418	軒廻矩術早見二編	明治9年11月5日	1876	盛岡藩故人・本林重之助常将著／東京書林芝飯倉町五丁目四番地・出版人鈴木忠藏版	／	典籍 (横)	83 * 181	1	「上野」朱丸印あり／表紙痛みあり	15
419	[新刻] 大工雛形上・下	明治9年3月7日版權免許	1876	東京書林芝飯倉町五丁目・一貫堂鈴木忠藏板／(序) 曉亭真彦	／	典籍 (横)	129 * 188	2	法量は上巻で取った／嘉永元年彫刻、慶応3年版／上巻表紙に「第拾号」、下巻表紙に「第拾壹号」の記載あり／下巻の外題欠落	18・19
420	大工雛形二編 上・下	明治9年3月7日版權免許	1876	東京書林芝飯倉町五丁目・一貫堂鈴木忠藏板／(序) 松亭金水	／	典籍 (横)	128 * 186	2	法量は上巻で取った／嘉永元年彫刻、慶応3年再版／序は嘉永4年／上巻に「村山」朱丸印あり	20・21
421	[増補] 大匠雛形	明治9年4月26日版權免許	1876	東京本所・鈴木勘右衛門正豊筆／興州盛岡・本林重之助常将筆／京書肆須原屋茂兵衛／(京都)大坂・東京の書肆10軒)	／	典籍 (横)	146 * 221	6	外題は「[新板] 宮雛形」等／享保2年秋新刻、慶応2年春再版／二・三・五篇に「村山」印、四・五篇に「上野」印／六篇に「製本師 鹿野氏」朱方印あり	22～27

422	[当世] 初心雛形 上・下	明治16年4月	1883	東都神田落合・大貫範国著／原 版人須原屋茂兵衛・東京日本橋区通り一丁目／出版人東京府平民脇田倉八・東京府下神田区通り新石町九番地／発行書肆東京日本橋区薬研堀町四十三番地・鈴木喜右衛門	／	典籍 (横)	130 * 185	2	法量は上巻で取った／序は嘉永4年初冬／上巻表紙に「第八号」、下巻表紙に「第九号」とあり／下巻に「上野」印あり	16・17
423	[明治新撰] 欄間雛形 上・下	明治16年7月	1883	編輯人福岡県平民内野清蔵／出版人同(福岡県)土族林彦介／平原助次校正	／	典籍	213 * 152	2	法量は上巻で取った／上巻に「明治廿九年十一月 上野」、下巻に「上野」と書き込みあり／内野清蔵の住所は福岡区福岡筑戸町194番地、林彦介の住所は福岡区福岡箕子町103番地	4・5
424	[明治新撰] 建具雛形 上・下	明治16年8月	1883	編輯人福岡県平民上杉半八／出版人同(福岡県)土族林彦介	／	典籍	216 * 148	2	法量は上巻で取った／上巻に「明治廿九年十一月 上野」、下巻に「上野」と書き込みあり／上杉半八の住所は福岡区福岡西湊町113番地、林彦介の住所は福岡区福岡箕子町103番地	2・3
425	番匠往来 全	(明治20以前)	／	池田東籬亭編并書/長山(図)／京都書林・三条通富小路東江人・須磨勘兵衛(印：弘蘭堂)	／	典籍	222 * 158	1	明治20年12月谷口末吉購入／「谷口」印あり／初版は天保8年	1
426	[新撰早引] 匠家雛形三篇 上 社堂門	(明治)	／	本林常将著/京都書林千鐘房・一貫堂	／	典籍	224 * 155	1	「村山」朱丸印あり	9
9	その他									
427	江戸大絵図之内本所之図	／	／	／	／	絵図	630 * 1170	1	／	224
428	越後国絵図	天保12年正月下旬	1841	／	／	絵図	1173 * 2245	1	／	228

429	〔近江国高島郡北生見村絵図〕	明治	／	／	／	絵図	805 * 558	1	／	227
430	京都道筋朱引絵図	／	／	／	／	絵図	776 * 580	1	糊剥かれあり	219
431	花洛往古図	／	／	／	／	絵図	1050 * 835	1	糊剥かれ激しい	235
432	京名勝一覽図絵	明治28年6月25日	1895	編纂兼発行者京都市下京区東高瀬川筋五条下都市町谷口小治郎	／	絵図	533 * 764	1	彩色あり	223
433	〔伏見古城絵図〕	／	／	／	／	絵図	347 * 370	1	／	229
434	丹波国大絵図	寛政11年11月	1799	著者矢野貞利／皇都書肆堀川六角下ル町中川藤四郎／三条通柳馬場角堺屋仁兵衛	／	絵図	1084 * 922	1	／	218
435	細見丹後国大絵図	天保11年2月	1840	編者池田東籬亭／書肆吉野屋仁兵衛／山城屋佐兵衛他	／	絵図	1122 * 896	1	糊剥かれあり	232
436	大和細見図	安永5年改正	1776	中村敢耳齋／塩屋平助／河内屋喜兵衛	／	絵図	1510 * 1050	1	外れあり／享保20年8月穀旦初出	220
437	和州奈良之絵図	元治元年11月	1864	奈良大仏前絵図屋庄八板／大阪中津八兵衛調	／	絵図	496 * 662	1	鹿の総記載あり	237
438	南都絵図	／	／	／	／	絵図	623 * 732	1	／	236
439	摂州石山陣取図	／	／	／	／	絵図	655 * 845	1	糊剥かれ激しい	238
440	〔大坂大絵図〕	(享保19年～元文5年)	1734～	御絵図所林氏吉永	／	絵図	1398 * 1193	1	年代は、大坂城代太田備中守、大坂定番永井播磨守・米津出羽守より推定	233
441	和泉国絵図	／	／	／	／	絵図	612 * 1445	1	写し	241
442	紀州西牟婁郡瀬戸鉦山温泉図	明治23年4月10日	1890	印刷兼発行人三木善左衛門／売捌人塩田万之助	／	絵図	516 * 705	1	「明治丁亥孟春西讃書藏写」記載あり／藤田苔藏	231
443	車塚由来(南紀熊野湯ノ峯車峠)	／	／	／	／	絵紙	244 * 327	1	受人372～386袋一括	379
444	長崎之絵図	／	／	／	／	絵図	853 * 1970	1	寛文・延宝の記載あり	239

445	[検地書上]	享和2年8月上旬	1802	差図役山下重右衛門好孝/検地竿取治郎右衛門/辰太郎/宇右衛門	/	縦紙	279 * 343	2	前欠/絵図に付随していたと思われる/断簡1通あり	124
446	小物成御年貢割方絵図	享和2年8月上旬	1802	/	/	絵図	353 * 445	1	外れあり/京都市右京区松室鈴虫寺付近か	212
447	松室村谷川布北敷地作図	文化12年6月	1815	松室十右衛門/中江五右衛門	/	絵図	457 * 651	1	糊刺かれ激しい	213
448	松室村小物成御年貢地絵図	/	/	/	/	絵図	462 * 642	1		216
449	お谷ゴーリ(愛宕郡)岩倉村あざ長谷名じ松尾も兵(茶屋絵図)	/	/	/	/	絵図	153 * 166	1		109-07
450	二万分之一地形図東京近傍十四号(浦和)	明治42年7月30日	1909	大日本帝國陸地測量部	/	地図	460 * 580	1	明治39年測量	234
451	二万分之一地形図東京近傍七号(東京東部)	大正3年3月25日	1914	大日本帝國陸地測量部	/	絵図	458 * 581	1	明治42年測量/「上野蔵書」印あり	243
452	二万分之一地形図東京近傍十一号(東京首部)	大正6年10月25日	1917	大日本帝國陸地測量部	/	絵図	459 * 580	1	明治42年測量/赤線書き込みあり	242
453	京都市全図	昭和6年3月25日	1931	集英社	/	絵図	785 * 1092	1	3万5千分の1	217
454	宮城二重橋真景	明治20年	1887	梅壽國利/(印刷兼発行)日本橋区吉川町5番地堤吉兵衛	/	刷物	368 * 716	1	3枚組/歌川国利/騎馬行列描写あり	29
455	宮城二重橋真景	明治20年	1887	梅壽國利/(印刷)日本橋区吉川町5番地堤吉兵衛	/	刷物	370 * 247 /370 * 247 /370 * 246	3	3枚組/歌川国利/騎馬行列描写あり	30
456	[茶の湯日々草]水屋とくそろへの図	明治29年4月1日	1896	年方(朱文簡円印)/(印刷兼発行)東京市日本橋区室町三丁目九番地秋山武右衛門	/	刷物	256 * 371	1	水野年方	32

457	[茶の湯日々草] 亭主あいさつ内図	明治29年4月1日	1896	年方(朱文方印)(朱文方印)／(印刷兼発行) 東京市日本橋区室町三丁目九番地秋山武右衛門	刷物	256 * 372	1	水野年方	33
458	[茶の湯日々草] 山座手前の図	明治29年4月1日	1896	年方(白文方印)(朱文方印)／(印刷兼発行) 東京市日本橋区室町三丁目九番地秋山武右衛門	刷物	255 * 372	1	水野年方	34
459	[臨時風俗] 少女の礼式	明治29年12月17日	1896	楊洲齋延一／(印刷兼発行) 浅草区瓦町二ば ん地森本順三郎	刷物	375 * 247 / 374 * 251 / 375 * 258	3	3枚組／彫徳	31
460	[茶の湯日々草] 花を活躍	明治30年4月1日	1897	年方(朱文方印)(朱文方印)／(印刷兼発行) 東京市日本橋区室町三丁目九番地秋山武右衛門	刷物	257 * 371	1	水野年方	35
461	奥女中行列之図	明治31年	1898	楊齋(朱印)／(印刷兼発行) 日本橋区吉川町5番地堤吉兵衛	刷物	368 * 709	1	3枚組／江戸城、大名行列描写あり／楊齋延一か／(方朱印)「荒木刀」	28
462	御鹵簿(京都皇宮建礼門前)	昭和3年9月5日	1928	(大阪毎日新聞社)／猪飼嘯谷謹写	印刷	268 * 385	1	大阪毎日新聞昭和3年9月5日付付録	36-1
463	即位礼(紫宸殿の御儀)	昭和3年9月5日	1928	(大阪毎日新聞社)／松岡映丘謹写	印刷	268 * 385	1	大阪毎日新聞昭和3年9月5日付付録	36-2
464	大嘗(五節舞)	昭和3年10月5日	1928	(大阪毎日新聞社)／堂本印象謹写	印刷	269 * 383	1	大阪毎日新聞昭和3年10月5日付付録	37-1
465	大嘗祭(大嘗宮渡御)	昭和3年10月5日	1928	(大阪毎日新聞社)／西山翠嶂謹写	印刷	269 * 383	1	大阪毎日新聞昭和3年10月5日付付録	37-2

466	[月並連歌集]	享和3年5月23日	1803	/	/	縦帳	156 * 109	1	作者は、春香・儀兵衛・曾路・すみ・まつを・久子・この・安兵衛・将監・近藤・岩佐翁など/裏表紙破損/虫損大	66
467	江戸大火之次第	(文化3年)	1806	/	/	折紙	244 * 334	1	文化3年寅3月4日	123
468	天道神祇大祓	天保5年10月	1834	/	吉田殿学館守護職玉田永教/御殿御書物所[]/ (弘所書林7軒)	折本	145 * 063	1	祝詞集/表紙欠/表題は地に書かれている/糊剥がれあり	71
469	[某神事祭場図]	/	/	/	/	絵図	769 * 595	1	彩色あり	246
470	平安神宮時代祭行列図譜	明治28年10月18日	1895	/	編纂平安遷都紀念祭協賛会/印刷兼発行者村上勘兵衛・京都市東洞院三条上ル臺華院前之町十番戸	横帳	222 * 302	1	裏表紙に落書きあり/挟み込みあり (枝菊鉢、明治31年5月18日付)	69
471	あふい祭ノ記	/	/	/	/	断簡	163 * 307	1	葵祭/裏に図あり	125
472	周易朱子図説	/	/	/	/	縦紙	273 * 2732	1		118-1
473	限象観星鏡正面図	/	/	/	/	絵図	270 * 397	1	受入118-1に挟み込まれていた	118-2
474	象限儀并梓図	/	/	/	/	絵図	295 * 359	1	受入118-1に挟み込まれていた	118-3
475	[線刻石仏拓本]	/	/	/	/	絵図	665 * 1279	1	観音か	264-1
476	[線刻石仏拓本]	/	/	/	/	絵図	670 * 1330	1	観音か	264-2
477	[線刻石仏拓本]	/	/	/	/	絵図	815 * 1225	1	如来か/破れあり	264-3